

## 佳作

### 何気ない日常にシャッターを

山形県鶴岡市立朝日中学校

3年 小野寺 美海

未来の自分へ。まだカメラで写真を撮り続けていますか。

私は写真を撮ることが好きだ。中学生になったばかりの頃、新しい環境になじめず、悩むことが多かった。一日が長く感じてしまっていて、あまり楽しいことがなくなってしまっていた。そんな中、一つだけ心が安らぐことがあった。それは、空を見上げることだ。空は、毎日違う形、違う色で、面白く、授業中も休みの日も暇さえあれば空を眺めていた。

ある日、私は「こんなきれいな空、いつでも見返せるようにしたい。」と思うようになり、スマホのカメラで写真を撮り、アルバムに残していった。夏は入道雲、冬は太陽の光に反射する雪とともに。アルバムには、たくさんの景色があふれていった。

また、それだけでなく、田んぼ、桜の花など美しい自然風景を撮っていったりもした。そうして私は写真を撮ることの楽しさを覚えていったのである。

中学2年生になった時には、父が使っていたカメラをおさがりでもらえた。でも詳しい使い方が分からず、困っていると「こうすると撮影できるよ。」「この設定は雨の日でも綺麗に撮れるから試してごらん。」と、父が教えてくれた。そんなふうに、父に教わりながら今までより写真を撮ることに夢中になっていた。日常生活のふとした瞬間に「これ撮ったら綺麗だな。」など写真のことを考えると心が躍りだし、今すぐにでもカメラを持って撮影に行きたいと思っている自分がいた。

中学3年生になった時、ついに自分のカメラを買ってもらえた。毎日ネットで調べるくらい欲しくてたまらなかったカメラが、自分の目の前に置いてある、そう思うだけですごくうれしくてこれからいろいろな写真が撮れると思うとわくわくしてたまらなかった。

自分のカメラで最初に撮った記念の写真は、やっぱり空だ。今にも吸い込まれそうなほど大きく、きれいな青色で、1枚目としてふさわしい写真が撮れた。それと同時に、改めて空の美しさを実感させられるものになった。

私が写真を撮り続けるのにはいくつか理由がある。

一つ目は思い出を増やしたいと思うからだ。写真を撮り始める前の私は外に出かけることがあまり好きではなく、家族に誘われても断ることが多かった。しかし写真を撮り始めるようになって外に出ることがすごく増えた。海の写真

を撮りに友達と一緒に出かけたり、家族と風鈴を見に行ったりと、その時の写真を撮ることでいつでもその時間に戻ることができ、より愛おしい思い出に感じられるようになった。

それに今まで 14 年間気づけなかった山形の良さ、自分の住んでいるところがどれだけ自然が豊かで素晴らしいということをカメラが教えてくれた。カメラを始めていなかったら、一生知ることができなかったと思う。

二つ目はただ単に撮ることが好きだから。写真を撮ってアルバムに残すという行為はすごく素敵なことだと思う。写真はその時にしかない一瞬一瞬を残しておける。また、その瞬間はその人の見方・視点・感情が表れるもので、それは写真を見た人に撮影者の意図が伝わるものでもあるからだ。写真を上手に撮らなくてもいい、人に見せなくてもいい、ただ何かを撮影することが楽しければいいと思えるようになった。

カメラは、私にとって魔法のようなものだ。つらくて、退屈だったモノクロの世界に色を与えてくれただけでなく、今までよりも日常の光景が美しく、興味深いものに変えてくれたのだから。カメラを始めたから得られたものがたくさんある。今は、それを大事にして一歩ずつ進んでいきたい。

だから私は未来でも写真を撮り続けていてほしいと思う。自分が好きなことをして、毎日が楽しくて、思い出に残したいと思うような生活を送っていきたい。そのときは写真を撮っていつまでも記憶に残るような大切なものにしたい。いつか、自分の写真を見る日がくるかもしれないと思うと、今から楽しみになってくる。

私は夢ができた。それは自分が撮った写真で人を笑顔にすること。悩んでいる人が見たら、一瞬でもその悩みを忘れさせるぐらいの写真。友達を撮ったとき「ありがとう」と言われるような写真を。だから私はシャッターを切り続ける。自分が写真に救われたように、今度は自分が写真で誰かを救いたい。今は難しいかもしれない。でも今からできることはたくさんある。写真について勉強したり、カメラの技術を上げたり、たくさんの出会いと思い出を重ねながら努力していきたい。

過去の私に「たくさんの人を写真で笑顔にできたよ。」と言える日がくることを願って。